

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を正面玄関に提示しています。事業所独自の理念を接遇委員会にて検討し、「まごころと思いをつないでみんなが暮らせる家」という理念を作り、職員で共有をしています。事業所理念は正面玄関とユニット内に提示しています。	法人は柏崎市を中心として事業所を数か所経営しており、事業所は開所して8年目を迎えている。法人の理念は入職時研修にて職員周知しており、理念は開設当初から変更がなく、各ユニットの食堂に掲示されている。	事業所理念は、設立当初から引き継がれた大切な理念であり、職員一人ひとりが理解し、目指すサービスの根本的な考え方である。今後は理念の振り返り、事業所理念を理解し利用者・家族はもちろんのこと、地域の方へも広くアピールすることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での清掃活動に参加しています。町内行事ではこいのぼり見学や七夕祭りに利用者と職員で参加させていただきました。10月にはコロナウイルス流行状況を見ながらコミセン祭りに利用者と職員での参加を予定しています。	町内会に加入し、町内の方が施設の花壇の整備や草取り等行うなど、町内の方からも気にかけてもらっている。今年は3年ぶりに柏崎祇園祭のお神輿が町内を巡回し施設にも立ち寄ってもらうなど、コロナが感染症5類に移行したことで、少しずつ町内行事参加にも動き始めている。今後は感染状況をみながら利用者も町内行事に参加できるよう予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター養成講座を開催していましたが、コロナ禍や担当職員の退職により行えていません。現在、実習生の受け入れや地元中学生の職場体験を行っており、施設の取り組みを紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能事業所と合同で開催しています。利用者様のご家族や他事業所に委員をお願いし、利用状況、事故やヒヤリハット報告、行事の様子等をお伝えしサービスに関する協力や助言、指導を頂いています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、町内会長・民生委員・市職員・包括支援センター・利用者家族が委員となり対面での開催がされている。事業所での様子がわかるよう写真付きで行い、丁寧に状況報告を行っている。事故ヒヤリハットやサービスに対する意見や助言を受け、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、事業所の取り組みや改善課題を話し合い、外部からの率直な意見が得られる貴重な意見交換の場である。参加できない家族や職員にも会議報告を兼ねて次回開催への意見や質問等をもらえるよう、配布活動の検討と工夫に取り組まれていることが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、市役所の介護高齢課職員1名・地域包括支援センター職員1名に参加をお願いし、事業所の報告をするとともに意見を頂いています。	柏崎市は介護職人材確保から夜勤者に補助金制度を導入しており、法人本部がまとめて手続きを行っている。また、市が主催する研修に参加し、参加した職員から復命、伝達研修を行っている。管理者は『介護保険運営協議会』『地域包括運営協議会』に出席し情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを各ユニットに配布しています。施錠については日中は行っていませんが夜間は防犯のため行っています。身体拘束については、センサーマットを使用されている方がいますが、センサーマット使用が広義での行動抑制になるのではないかと考え、センサーマットを使用しない支援方法がないかユニット会議等で検討しています。今年度も身体拘束・虐待防止について配布した資料をもとに研修を行う予定です。	法人内研修で虐待防止研修を行い、身体拘束についても触れており、伝達研修も行っている。研修の中で危険予知訓練を毎月行い、利用者が安全に安心した生活が送れるように検討している。また、センサーマット使用者については、日々の行動パターンを細かく把握し、毎月のユニット会議で支援方法を検討している。	「身体拘束指針、マニュアル」があり各ユニットに配布している。研修も定期的に行っており、利用者の安全確保を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今後は身体拘束の指針とマニュアルの差別化、マニュアルの定期的な見直し、職員周知を行い、事業所の工夫や取り組みがより実践できることに期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止として9月、2月の計2回研修を行います。不適切ケアについてアンケートを実施し、6月7月に各ユニットで振り返り虐待に繋がらないよう改善点を検証しました。	身体拘束・虐待防止研修を年2回行い、マニュアルも整備している。不適切ケア自己点検シートを用いて、全職員のケアについて振り返りを行い、集計をしてユニット会議で話し合いを行っている。管理者は、今後、新聞記事の掲載をコピーして職員に配布し、注意喚起をしていきたいと意欲的である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、今年度は研修等行っていません。今後、過去の研修記録を参考にしながら理解を深めていきたいと考えています。法人内や外部研修があれば参加し職員間で共有していきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にできるだけ施設内を見学をしていただき、不安や疑問に思われたことにお応えしています。利用開始前に契約書・重要事項説明書についてご家族様に説明を行い承認を得てから利用を開始していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置しています。日常生活や会話の中から利用者の思いや要望を確認し実現に向けて取り組んでいます。ご家族様には面会時や電話連絡の際に意向や要望等がないか確認しています。ご意見を頂いた際は管理者へ報告し各ユニットや施設内で共有し改善に努めています。	利用者からの意見や要望は、日常生活の会話と介護計画書の変更時に意見を聞いている。利用者からは外出の要望があり、家族と連絡調整を図りながら実現している。家族には、介護計画書変更時や受診時に意向等聞いている。面会の問い合わせが多くなっており、面会も緩和され、事前に電話で連絡をもらい面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット連絡ノートの活用やミーティング、ユニット会議等で意見の交換や提案を聞く機会を設けています。また、管理者が全職員を対象に個別の面談を実施し業務に反映できるように努めています。	ユニットリーダーが意見や改善点を聞き、経営等に関する事などは施設長に報告している。また、小規模・グループホーム運営会議にはユニットリーダー、主任相談員、施設長が出席し施設全体の会議を行っている。会議の報告は各ユニット会議にて行っている。タイムリーでの改善点は各ユニットで相談し業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、職員が向上心をもって勤務できるよう努めています。資格取得に対する支援も行い、個人のスキルアップ、キャリアアップの体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップを目指し、法人内での研修の協力体制を取り、新採用、中堅、指導的職員研修等に参加しています。今後は以前のように外部研修にも積極的に参加し、学びの機会を増やしていきたいと考えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市内の事業所連絡会などに参加し、ネットワークづくりや情報交換、サービスの質向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅やサービス事業所へ訪問し生活状況の確認や、本人・家族との話し合いにより、生活歴、背景を知ったうえで本人の思いを理解し受け止め、安心して生活して頂ける関係作りに努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族との面談で不安や要望等確認しています。また、本人に対する生活の意向を確認し、サービス計画書に反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談にて、本人・家族の困っている事を聞き取り必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスについての説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で利用者の身体状態に合った家事を職員と一緒にを行うようにしています。家庭の延長上となるようご自分で出来ることはして頂き、役割を持ってもらう事によって自分の居場所と思ってもらえるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、受診、居室の環境作り等、ご家族からのサポートや協力が施設での生活には欠かせない要素として捉えており、ご家族にしかできない関わり方等をお願いするとともに、協働する関係づくりを大切にしています。話し合いの結果を会議録に残し、職員にも周知しています。	面会が徐々に緩和され、相談室等で対面での面会を行っている。また、受診や日用品の買い物等は家族にお願いし、受診時には家族とドライブに行ったり、外食等へ行ってる。また、感染予防をしながらお墓参りや孫の結婚式に行くなど家族との時間を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍による外出や面会の制限がありましたが、少しずつ緩和し家族や知人と面会できるようになりました。また、感染症予防に留意していただきながら馴染みの美容室の利用などこれまでの関係が途切れないよう努めています。今後は個別ケアとして、自宅や思い出の場所への外出を再開できるよう支援していく予定です。	柏崎市全体から利用者が集まっている。家族以外の知り合いや近所の方が電話で面会予約をし面会を行っている。また、近所まで来たのでと寄っていく方にも対応しており、徐々に面会も緩和している。家族対応で馴染みの美容室を利用するなど、自宅や思い出の場所への外出を再開できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、食事席を工夫したり職員が仲介し個別の活動や役割を提供しています。介助が必要な利用者に対し、他の利用者が手助けする場面もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了しても、必要に応じて面会や相談、支援に応じ、情報提供や他のサービスの利用につながるよう努めています。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当介護員と計画作成担当者を中心に、生活の中で利用者の思いや考え等把握し、要望に対応できるよう心掛けています。ミーティングやユニット会議、連絡ノートなどで職員間で共有し必要に応じてカンファレンスやケアプランに反映させています。利用者の方がグループホームで生活していく上で、今後してみたい事や以前していた事を諦めないように職員と利用者で協力し、計画を立て個別ケアを実現へと繋げていきます。	入所時の事前面談で本人家族から意向確認を行った後、フェイスシートに情報を整理し、職員と共有している。入所後は日々の関わりの中で、利用者の思いや暮らし方の希望、表情、しぐさ等、丁寧に聞き取り、日々の連絡ノートなどで情報を共有し、本人の意向を主体としたケアプランに反映している。また、意思疎通が困難な方には、支援の中で、喜ばれたこと、嫌がっていたことなど、リスクを考えながら職員で情報共有し、利用者がより快適な暮らしができるように支援に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族との関わりの中で、これまでの暮らしや環境を把握するようにしています。特にその方の背景をまず知り職員間での情報交換を行い、共有するようにしています。	小規模多機能施設と同じ建物にあり、入居者は小規模多機能施設から入所される方が多い。職員も連携しているため、生活歴や生活環境など把握がしやすい状況にある。また、入所時は家族が来所し本人の趣味や好きなことなどを聞き取り、入所後も継続できるように支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族から入所前の情報を伺い、その方をより把握できるようにしています。また、何をどれ位できるのかを日々の記録に残し、能力維持や向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の思いや意向を確認し、ユニット職員からも意見を聞いたうえでカンファレンスを行い現状に応じた介護計画を作成するよう努めています。	居室担当、計画作成担当者が中心となり、利用者の状況把握に努めている。日々の生活の中で、具体的なエピソード等を記録に残し、定期的なモニタリングを行い、現状に即したプランの作成に努めている。状態変化時にはタイムリーにユニットで検討し、家族と相談しながら、心身の状態に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末に記録し定時に印刷したものを出勤時に目を通し情報を共有しています。また、連絡ノートで職員間の情報共有を行い、支援内容の工夫を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズ・ご家族の希望、その日の体調や天候など様々な要素を考慮し、その方の生活リズムを大切に考え、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の一員として、地元の町内行事に参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望されるかかりつけ医に通院を行っています。家族が付き添いできない際には事業所にて対応ができるようにしています。かかりつけ医には状態を書いた手紙を渡し、状態が変わった時には職員も付き添い通院に行き関係作りを行っています。	本人、家族の意向を聞き、ほとんどの方が入居以前からのかかりつけ医に通院している。付き添いは基本的に家族にお願いしており、施設から「通院時連絡票」を持参してもらい、医療との情報共有も行われている。緊急時や状態変化時には、施設で受診支援をし、家族に報告している。また、協力歯科医院による往診も年に一回行われており、口腔ケア研修にて歯ブラシの仕方も教わり最後まで口から食べることを意識している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでは常勤の看護師が配置されていないことから、訪問看護のナースパートナーと契約し異変時は24時間体制で相談し指示を仰いでいます。また、週1回訪問で利用者の健康状態を見極めて助言を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向いたり電話にて病院関係者との状態確認などの情報交換を行っています。また、カンファレンスにも参加し退院に向けた調整も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の利用者はいませんが、身体機能や認知機能低下が見られる方には、ご家族に早めに報告し、医療機関に相談しています。また、更なる重度化を防ぐ支援方法をミーティングやユニット会議などで検討しています。	事業所では終末期の対応が出来ないことを、利用開始時に説明している。日々のミーティングで入浴や食事等機能低下が見られる利用者については、早い段階で家族に意向を確認するとともに、リーダーを中心にユニット会議で検討、事業所が出来ることを支援しながら医療機関や他施設への相談を行い、途切れないサービス提供に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修委員会で今年度も事故防止研修として危険予知訓練、急変時の初期対応として救急法研修を予定しています。また、ユニットには急変時対応の手順や救急車要請の手順など、どう行動すれば良いかが分かりやすいようチャート図で配布しています。	急変時や事故発生時に備えてマニュアルが整備されており、とっさの時にわかりやすいフローチャートが目につきやすい場所に設置されている。研修委員会で救急法の研修を企画中であり、今年度はDVD研修の予定である。また、ユニットごと救急車要請の手順書がファイルされており、玄関には防犯カメラ、AEDも設置されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して防災委員会にて計画した避難訓練を行っています。火災、地震想定の実施を行っています。コロナウイルスの流行状態を見ながら、以前のように地元消防団、地域住民、消防署立会いの訓練も検討しています。	防災委員会の年間計画どおり、2回の避難訓練が行われている。現在は感染対応にて行っていないが、町内の防災訓練にも参加しており、地域との協力体制も図られている。また、セコム災害メールシステムにも導入している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけるような言動がないか、接遇委員会を中心に不適切ケアのアンケートを実施し改善点をユニット内で検討しています。	不適切ケアについて、接遇委員会を中心に職員個々にアンケートを実施し、主任がまとめたものをユニット会議で話し合いが実施されている。日々の接遇についてを知る機会となり、意識を高めることができた職員からも意見があり、継続的に実施することを検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に意向を確認しながら、ご自身の好みの事や行いたいことができるよう支援していますが、やや職員主導の場面も見られます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努めていますが、やや職員主導の場面も見られます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人と選び、季節や気候にあった本人の好きな服装をして頂いています。理髪についてもご本人の要望を聞いて利用して頂いています。起床時にはご自分で、洗顔され乳液を付けていられる方もいられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍での感染予防の為、食事の準備や片付けなどは職員が行っていましたが、行事活動の際に昼食や軽食などを利用者の方と一緒に作りました。普段食事摂取量が少ない方もおかわりをされていて食事を作る楽しさについて実感しました。今後は徐々に食事作りの機会を増やしていく予定です。	毎日の食材は栄養士の献立を基に、委託業者から届けられている。月ごとの行事食やパン食、麺類など、利用者の希望を聞いた献立や、畑で取れる旬の野菜で季節を味わってもらおう工夫している。利用者からは感染対策をしながら準備や片付けを手伝ってもらい、今後は楽しい食事をより楽しくできる機会が増えるように盛り付けや調理を一緒に行う計画もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託している担当栄養士の献立を基に食材が配達され、食事を提供しています。食事量についてはタブレットに入力することで把握し、必要に応じて補食を提供しています。また、嚥下機能の見極めを行いながら、利用者に合った食事形態で提供していますが、急激な嚥下機能低下の方への支援に苦慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて、介助を行っています。就寝前には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めています。また、訪問にて協力歯科医院による歯科検診も行っています（1年に1回）		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてタブレットで記録し、一人一人の排泄タイミングを把握したうえでトイレ誘導を行っています。また、表情やしぐさなどから自尊心を尊重し支援を行っています。	利用者への排泄支援はタブレットに記録し情報共有している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者のしぐさや声かけのタイミング、言葉を選んで対応するなど自尊心に配慮している。ズボンの上げ下げなど出来ることは見守りを行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動のほか、排泄チェック表にて排便の状況を把握しながら、便秘傾向の方には水分を多めに摂って頂き便秘予防に努めています。便秘が解消しない場合は医療機関に相談しながら対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では職員都合の入浴となっています。基本となる入浴予定表により、利用者の体調や希望によって日時の変更しながら入浴して頂いています。入浴が困難な際は清拭や、シャワー浴、足浴等で対応しています。	入浴は週に2回を基本として、午後の時間に一人ずつ支援している。季節の入浴剤の活用や、入浴拒否のある方には、時間や曜日の変更をしたり、シャワー浴・足浴等、臨機応変に対応している。先日の実習生が来た際には、目からウロコ！の気づきをもらい、職員間での個々に沿った支援の再確認を行うことができた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて休息して頂いています。また、安心して気持ちよく休まれるよう環境整備に努め、季節ごとの寝具の入れ替え等も行っています。ご家族からも以前、自宅で愛用されていた布団等を持参して頂き、より自宅にいたころのように安楽に眠れるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法、副作用について説明書等にて確認しています。落葉が無いよう一人一人に合わせた服薬介助を行い、配薬確認表や服薬チェックを職員2名で確認しながら飲み忘れが無いよう努めています。また、症状の悪化や状態変化が見られた場合はご家族にも相談し、主治医から指示をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、リネン交換、洗濯物干しや洗濯物たたみなどの家事や、歌や絵など日常生活の中でその方が得意とする事を行っていただき、やりがいを感じてもらい活躍できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス流行により外出制限がありましたが、少しずつ散歩やドライブなど外出の機会を増やしています。また、お墓参りや結婚式への参加など、ご家族の方からもご協力を頂き外出・外泊予定の方もいます。	外出支援は感染対策をしながら、数人ずつ散歩に行く、受診時に遠回りしてミニドライブなど機会を増やしている。地域の協力で七夕やこいのぼりを鑑賞したり、家族の協力でお墓参りや、結婚式への参加なども可能となった。今後も利用者の希望を聞きながら外泊なども検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭管理をしておらず、原則ご家族の管理となっています。個別にお金を持っている方には必要に応じて買い物の支援をしています。ご家族には紛失の可能性のある事もお伝えし了解を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の影響にて面会が出来なくなった際はLINE電話でお話を楽しまれていました。現在は希望に応じて電話や手紙などのやり取りを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では季節を感じられるように装飾を変え、中庭や畑には花や野菜を育て四季を感じて頂いたり、ベンチを設置しその季節に応じた風や日光を自由に感じて頂いています。利用者の希望を聞きながらホールや部屋では冷暖房を調整しています。生き物が好きな利用者もいらっしゃることから熱帯魚の水槽を2つ設置しアクアリウムを行い、生き物が好きな利用者から癒されると喜ばれています。	事業所内はどこにいても陽の光が入る明るい造りとなっている。ユニットの中庭は開放的でベンチがあり、洗濯物を干すこともできる。壁面に飾られる作品や、プランター・畑で作られる野菜や果物に季節感を感じることができ、水槽の熱帯魚に癒されている。読書が好きな方も多く、図書の貸し出しも人気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の食堂の他に交流ホールや中庭のベンチ、各個室などご本人が好きな場所で過ごしていただけるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に使い慣れた家具や思い出のある物を持ち込んでいただくようお願いをしています。	居室にはベッド、クローゼットが備え付けられており、広く明るい空間に、使い慣れた枕や毛布が持ち込まれている。衣類の衣替えなどは家族に連絡をして対応してもらい、利用者と家族の絆を繋いでいる。壁に写真や作品を飾ったり、ベッドや歩行器の配置を工夫して居心地よく過ごせる工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの安全な環境を整え、施設生活では自宅で困難であった動作も自立して行えるよう支援していきます。自分の出来る事は自分でして頂き、ご本人の残存機能を引き出せるよう声掛けをさせて頂いています。		